令和５年度「知事と市町長の円卓対話」（多気町）概要

１　対話市町　　多気町（多気町長　久保（くぼ）　行央（ゆきお））

２　対話日時　　令和５年９月２０日（水）１０時２０分から１１時２０分

３　対話場所　　五桂池ふるさと村　多目的・交流スペース
　　（多気郡多気町五桂９５６）

４　視察場所　　マルシェグランマ、まごの店（多気郡多気町五桂９５６）
　　熊野古道伊勢路・女鬼峠（多気郡多気町野中）

５　対話項目

（１）デジタル田園都市国家構想（美村プロジェクト）について

（２）子育て支援事業について

（３）菌床たい肥事業について

（４）「五桂池ふるさと村花と動物ふれあい広場」改修について

６　対話概要

対話項目（１）デジタル田園都市国家構想（美村プロジェクト）について

（町長）

県の南部は、人口減少のところが結構多くて、知事も頭を悩まされているところかと思います。

県の北部は、子どもが増えて、保育所の人数配置などで困っているということですが、逆に、南部は、人口減少が非常に激しいです。新しい事業に取り組まなければならないということで、隣の町に声をかけ、５町で連携してデジタル田園都市国家構想に取り組んでいます。

今、取り組んでいるものがデジタル地域通貨「美村 PAY」であり、先般、多気町でプレミアムを付けたところ、新規会員が 1,000 人を超えました。それから、共通地域ポータルサイト「美村」と広域観光ポータルサイト「美村 Travel（トラベル）」。この三つのデジタル関係の実装をやっております。この「美村」は、複合リゾート施設の「VISON」ではなく、県がやっていた「美し国おこし」を引用して、「美しい村、美村」ということで５町足並みが揃いました。

その中で、今年度からは、マイナンバーカードと連携させる「美村パスポート」、これは広域観光で５町を周遊できるもので、将来の移住・定住にも繋がり、地域の活性化や起業のチャンスにも繋がっていくということで進めております。

１点目ですが、５町にある魅力ある地域資源を、地元の人も含めて、全国に発信していくには、将来広域のＤＭＯの創設も必要になってくるということで、広域での組織の創設や運営方法などのノウハウを、県からご教示いただければありがたいと思います。

２点目は、三重県で構築されている「三重観光マーケティングプラットフォーム」

との連携、特にＯＴＡ、これはインターネット上だけで予約できる旅行会社ですが、これと連携できる部分があれば、ぜひこれもお願いしたい。

最後に３点目ですが、５町の取組を全国に発信していく必要があり、この点が重要です。県におかれては、全国に情報発信する場があれば、ぜひとも５町、多気町、明和町、度会町、大台町、紀北町の取組を発信していただけるとありがたいです。三重テラスという場もありますので、それも含めて、どうぞよろしくお願いします。

（知事）

人口減少、大変なことになっています。三重県では、去年４月に、47 都道府県で初めて人口減少対策課を作りました。今年８月には、人口減少対策方針を打ち出しており、これは議会からもご意見いただきながら作ったもので、これを作っているのも三重県だけです。

大事なのは、若い女性が三重県から外へ出ていくので、その方々に残っていただくこと。そのためには雇用の場所が大事であり、久保町長は本当に心を砕いておられます。特に、女性はサービス業で働く方も多いので、そういう場所を増やしていただけると、人口減少に「歯止め」をかけるのは難しいかもしれないが、緩やかにはできるのではないかと思います。

この間、VISON で５町の連携の話を伺いました。先日、新聞にも「デジタル田園都市国家構想を頑張っている」と載っていましたが、この取組は非常に良いことだと思います。この取組は三重県の名前を上げることにも繋がります。全国への情報発信をという話も先ほど町長からいただきましたので、知事会議で、やがてデジタルの話も出てくると思いますので、機会を捉えて情報発信していきたいと思います。

２番目のＤＭＯですが、これは観光を盛り上げるための組織です。町役場でも市役所でもなくて、観光連盟、観光組合のような、どこの国でもありますが、これはとても大事です。私はフランスで観光の仕事に勤務していましたが、フランスはどんな小さな村に行っても、フランス語では「サンディカ」と言いますが、観光協会があり、そこが街の魅力を発信しています。町役場ですとなかなか難しいところがあり、それに特化できませんので、ＤＭＯを作るのがとても大事です。三重県も観光に力を入れていこうと、２年ぐらい前から観光予算を倍増させていただきました。

ＤＭＯを作ると何が良いかというと、やはり観光客を増やすために努力する組織ができるということと、もう一つは、自治体、町役場、市役所だと税金で仕事しますが、ＤＭＯは自分で稼ぐことができます。例えば、近いところでは明和町が作りました。大事なのは情報発信だと思いますので、それをＤＭＯでやっていただければ。ＤＭＯ創設に向けてお手伝いさせていただきたいと思います。

それから、「三重観光マーケティングプラットフォーム」については、旅行者の方々のデータを一元管理し、データを収集して蓄積しているものであり、観光はデータに基づいてやっていかないといけません。このプラットフォームと多気町の「美村パスポート」との連動など、活用していただきたいと思います。

（町長）

多気町に住んでもらおうと思ったら、働く場がなかったら、一旦事業をやったとしてなかなか根付いてくれません。令和２年にはほとんどの工業団地の立地が決まりました。VISON も令和３年から本格的に動いており、雇用の場ができたので、令和３年度から新たに移住・定住促進策をやりましたので、今、百数十人多気町に移住していただいたり、子どもが 70 人増えたり、それは良かった。

ただ、残念なのがいわゆる自然減。もう今、１年間に多気町で生まれるお子さんの数が去年 70 人、今年は 70 人切るかもしれません。逆に、お亡くなりになる方が 200 人を毎年平均的に超えていて、これは止めることはできませんので、知事も仰っていただいたように、多気町には働く場がありますから来てくださいという手法で取り組んできたところです。

ＤＭＯにつきましては、自分の力で稼ぐこともできるということですので、観光協会と連携しながらやれれば良いと思います。ぜひこの辺りもよろしくお願いします。あと、三重観光マーケティングプラットフォームの連携・活用もうまくできればと思いますので、よろしくお願いします。

対話項目（２）子育て支援事業について

（町長）

私が町長に就任させていただいた頃は、多気町の人口は 16,000 人ほどでした。１年間に生まれるお子さんは、約 90～100 人ぐらいで、お亡くなりになる方は 180～190 人ぐらいでした。今は、１年間で生まれる子どもは、70 人切るくらいで、逆に、お亡くなりになる方が 200 人を超えて、220～230 人になっています。自然減はこういう形で、100 人ぐらいから 150 人ぐらいまでに増えましたが、これを止めることはできません。

令和３年度から子育て移住施策として、200 万円の補助金を出して、多気町で家を建ててもらい、家を建ててくれたら時間が経っても多気町に根付いてくれるだろうと、こういう思いで施策を行いました。これが非常に好評で、たくさんの移住者がいらっしゃいました。

それから、どこの町でもやっていますが、医療費無料化とか、平成 23 年か 24 年には児童館を開設し、ここで公設公営の放課後児童クラブをやったり、相談サポート事業をやったり、それから子育て支援センターを作ったり、今それが機能して、利用者が大きく増えましたので今は分散させた部分もありますけれども、あと、自然の中で子どもを伸び伸び育てようということで自然派保育園をやったりと、こんな施策をやったりしています。

あと、子育てだけではなくて、高齢者も障がい者も、みんなできるように、市には必置義務があるんですけど、福祉事務所を平成 24 年から設置しました。生まれる前の子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、全部福祉関係はここでまかなえるように、このような取組をして、子育て支援を含め、福祉に力を入れてい

ます。

（知事）

今年度の予算が実質私が知事になって初めて作る予算になりますが、その一番大事な部分、令和４年度と比べて伸び率を一番高くしたのが子どもの予算です。「みえ子どもまるごと支援パッケージ」と名付け、子育て、それから誕生に関するもの、また、子どもが生まれるためには男女の出逢いが必要ですので、それも含めて約 100 億円の県予算を用意させていただきました。中には 60～70 項目が入っていますが、新規項目も 20 を超える数を作り、今動かし始めているところです。結果がどう出るかはこれからですが、新しい施策をどんどん出していきたいと思っています。

令和４年度と比べて 22％くらいの予算の増額になっており、先ほど町長からもお話しいただきましたが、やはり子どもが生まれてくる数というのは減ってきている訳です。その要因の一つとして、三重県から若い女性が県外へ出ていってしまうというのがあります。15 歳～29 歳までの女性は、三重県の人口の中では６％なんですが、県全体で毎年約 4,000 人が県外に出ていく中で、そのうちの半分の 2,000 人が 15 歳～29 歳の女性です。その人達が出ていってしまうと、残った男性の結婚相手がいなくなり、結婚しない人の数が増えています。

三重県の場合は、結婚されるとだいたい２人のお子さんが生まれるという統計上の数字が出ています。結婚したいという方は男性も女性も割と多いですが、その機会がないと仰っています。他県では、自治体が中心になって、民間の力を借りることもありますが、マッチングをやっているということで、三重県も遅まきながら今年度そういうシステムを作ってやっています。知事会議で話をしますと、大井川茨城県知事は、ＡＩでマッチングをして、年間 60 人程度がカップルになったと言っています。これからは地域間競争なので、そういうことで出遅れてしまうと、子どもの数も増えていかないということになると思います。それをやったからと言って増えるかどうかは分かりませんけれども、何もやらないよりはやらなあかんと思います。多くの方々に賛同をいただけると思いますが、反対される方もおられます。結婚を強制する訳ではないので、結婚したい方に機会を提供したいと思っています。

去年の４月に人口減少対策課を設け、自治体の皆さんにもお声がけして、多気町も一緒に来ていただいたりして、子育てで先進的な自治体、岡山県奈義町や千葉県流山市の視察に行きました。その奈義町もやっておられる、子育て家庭に対する給付金、これを多気町も始められております。県で、子育てに役立つ施策をしたいと手を挙げていただいた市町を支援するため、３億円の予算を用意したところ、奈義町の取組も参考にしながら、多気町で新しい制度を作っていただき、今年度、県で支援させていただいているところです。

ただ、既存事業は残念ながら対象外です。既存事業だと町でやっておられることを県で肩代わりするだけになってしまいます。既存事業でも拡充する部分があれば支援できるところもあると思います。どんな施策が重要かは県だけではわかりません。基礎自治体の方々に教えていただきながら、将来的にはこういうものが良いの

ではないかとある程度決まってきましたら、それを各自治体の方にもお伝えし、募集させていただきたいと思っております。基礎自治体と県が車の両輪となって、三重県の少子化・人口減少の問題に取り組んでいきたいと思っています。

（町長）

私が町長に就任させてもらった頃に、まず最初に縁結び事業をやりまして、３年ぐらい順調にいきましたが、だんだんと参加される人が固定化してきました。どちらかというと男性の方がやや控えめで、女性にアタックしていくという部分が少なくて、初めの頃はカップルが誕生して子どももできていました。

あとは不妊治療、これは国の方も補助金を出していただいてあるんですけれども、助成を１回 10 万円、支援金を出しております。

多気町ではこの春から「こども課」を作りました。「０歳から３歳までは家庭で保育をした方が良い」という保護者の方のご意見も多数ありましたので、今年から県の「みえ子ども・子育て応援総合補助金」を活用させていただき、子どもを見てくださる家庭に、１人２万円の支援金を出しています。

今、もう一つ計画をしておりますのが、保育所。保育園が旧多気町に４園ありましたが、２年前から休園をしていって、もう廃園になった園があります。子どもの数が減ってきましたので、集団保育ができません。（子どもの数が）多い園は多いんですけれども、あと残りの２園は本当に子どもが少ないので、保育所の統合をやっています。子どもの集団保育と、保育士さんの安定確保にも取り組んでいかなければならない。それと、一番の問題は、保育所の統合には、国の補助がないんです、学校はありますが。これは合併特例債を活用しながらやっていこうと思っております。統合することで、早朝、延長、障がい児、乳幼児を含めて、全てのことが一つの園でできます。

また、私が福祉担当職員の時は、給食は自園方式で、補助金がなかった。今は給食センターを作っても構わないですが、基本はやはり自園で温かいものを温かく、冷たいものを冷たく、園児に提供するのが基本だと思いますので、これから統合しながら進めていきたいと思います。その部分は県の補助金は多分ないと思います。国もないと思います。でも、やらなければならない。また良い方法や組織の運営のやり方など、ご教示いただければありがたいと思います。

（知事）

縁結び事業について、最近聞くのは、一つの町とか一つの市だけでは限界があるという話です。もうちょっと広域で、そういう意味では県の仕事として馴染むのかもしれないと思い、これを進めていく必要があると思っています。

知事会議で、京都府の知事が仰っていたのは、京都は寺社仏閣がたくさんあるので、「寺コン」と言って、清水寺などでお寺が好きな男性と女性が集まって、そこに知事も行って、マッチングの場を作っているということです。また、「スポーツコン」とも言って、サッカー場やラグビー場にスポーツが好きな男女が集まり、そこ

にも知事が行くと言っていました。私も行った方が良いと思いました。そうすると、反対されている人も、カップルが増えるのだったら良いことじゃないか、それも結婚したがっている人が、ということだと思っていますので、そういうこともやっていきたい。

また、４月に「こども課」を作っていただいてありがとうございます。人口減少問題、２年前から私はずっと言っていますが、そういう形で町や市にそういう機運が盛り上がってきて、本当にありがたいと思います。

それから、保育所の統合について、国の補助がないというお話を伺いました。こども家庭庁もできたことですし、どんな形で要望していけるのか、国でやってもらうことが大事だと思いますので、ぜひお話も聞かせていただきたいと思います。

対話項目（３）菌床たい肥事業について

（町長）

菌床たい肥は、有機たい肥とお考えいただければありがたいと思います。

平成 23 年から、食べるものは病気の元にならない、良いものをバランス良く食することが一番ということで、医食同源のまちづくりを進めてきております。その中から、化学肥料ではなく、有機で作られた食材を食するのが私は良いと思い、平成 26 年に、井村屋、赤福、イオンの中から出てきた食品残さを活用して、電気を起こすバイオガス発電に取り組みました。しかし、残念ながらその材料をストックするのに臭いが出て、周辺地域から反対され、頓挫しました。

今取組を進めていこうと思っていますのが、多気町にホクト（株）という、きのこの会社ができまして、そのホクト（株）の菌床を使って、有機肥料ができないかと。既に、香川県でやられています。多気町では、ＪＡと協力しながら、三重県の普及センターや農業研究所も一生懸命協力してくれています。

今、ＪＡの以前使っていたライスセンターのところで、試験的に三つぐらい、ホクト（株）の菌床を使ったものと、それから牛ふん・鶏ふんを混ぜたものと、もう一つ、できたら活性汚泥を使ったものができないかと、研究しながら試験的にやっております。

香川県にあるホクト（株）の工場では、そこから出た菌床を使って大々的にやられており、それを使ったお米を近隣のまちから集中的に買いに来られていると言われるぐらい、効果のある肥料になっているということです。

多気町では、今年の３月に、有機農業の推進協議会を発足させまして、これは県、ＪＡ、地元の「土力（どりょく）の会」というずっと前から有機で取り組んでいる農家の方達と一緒に、できれば令和８年ぐらいを目標に取組をしております。

国の「みどりの食料システム戦略」では、2050 年までに、国の全農地の 25%は有機農業に変えていくことが示されています。一生懸命これから取り組んでいきたいと思うので、ぜひ専門的な知識やご助言を、県からいただければありがたい

と思います。

（知事）

三重県は昔から、三重大学には農学部がありまして、農業には力を入れてきています。農業の技術というのは蓄積されたものがありますので、しっかりと支援させていただきたいと思います。

有機農法については、国も推奨していますので、「みどりの食料システム戦略」というので国の交付金もありますし、「有機農業産地づくり推進事業」というのもありますので、県も国と話をしながら多気町に使っていただけるようしたいと思います。

もともと「多気」という名は、多くの気により生物、動物も植物も多くのものが成長して茂るという意味で付いたと伺っておりますので、農業をやっていただくのに一番良い場所かなという気もしています。ホクト（株）の話を先ほど伺いましたが、菌床は食品残さよりも臭いが少ないので、有機農法には最適なものなのだと思います。ぜひ、多気町で三重県をリードするようなやり方を作っていただければありがたいと思います。

それから、香川県の話も伺いました。先週、新潟県知事と２県知事会議をやりましたが、実は香川県知事とも２県知事会議をやろうと決めています。来年、香川県知事に来てもらうか、あるいは私が香川県に行くかどちらかなんですが、香川県に行くことになったら、ホクト（株）の工場も見させていただきたいと思いますし、ホクト（株）がつないでいただく多気町、香川県と三重県と、何か一緒にやっていけるものがあったら良いと思います。これからどんなことができるか、久保町長からまたお話を伺いたいと思います。

（町長）

VISON を誘致する時に、出してもらう食は、有機のものを中心にしてほしいと社長に申し上げました。そこで、「NOUNIYELL（ノウニエール）」というところで有機で野菜を作ってくれています。

ホクト（株）の廃菌床は毎日 70 トンぐらい出るんです。その 70 トンのうち 50 トンがバイオマス発電に使われています。できればその廃菌床の残り 20 トン弱位を有機農業に使わせてもらえないかと考えています。

それから、多気町の特産品で伊勢いも、次郎柿、松阪牛があって、その松阪牛の牛ふんを使った有機ができないかとも思っております。もう一つは活性汚泥、処分場から出る汚泥があり、これも有機にできないかと考えています。

今こんなことを思っていますので、ぜひ、県の普及センターや農業研究所からご支援をいただきたいので、よろしくお願いします。

対話項目（４）「五桂池ふるさと村花と動物ふれあい広場」改修について

（町長）

五桂池ふるさと村の動物園が開園 30 年を迎えまして、今日そこへも行っていただきましたが、動物園は正直に言って、儲かるものではありません。日本全国、儲かっている動物園はそれほどないと思います。

「小さい時、ふるさと村の動物園が楽しかった。」と言う方が今 50 歳ぐらいになられますので、子どもを連れて来たというのを聞くと、私の時に廃園にするのはいかがなものかという思いがありましたので、国の交付金をいただきながら、改良しました。

今まではキリンやゾウなどの大きな動物がいたりしましたが、これから形を変え、「ふれあい」にしていこうということで、草とかの除草も兼ねてヤギを入れたり、地域の役に立つような、そして子どもたちが触れ合えるような園にしていきたいと思っています。

ぜひ、開園した後の観光のＰＲ、それから、「動物と関わる施設としてこんなことをやっていますよ」と、県からもＰＲしていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

（知事）

私は生まれた時は家に牛も豚もいましたし、鶏も飼っていました。田舎の家はそうですよね。牛小屋が庭に出たところにすぐにありました。

今の子ども達は、小さい頃に命に触れる機会がないですよね。そういう意味では、ふるさと村でのふれあいは良いことだと思います。私の子どもが小さい時に、動物園に連れていき、大きな動物も楽しみに見るんですが、どちらかというと、ウサギとか小鳥とかハムスターとかを触って喜ぶんですよね。子ども達には、小さい時から命の大事さを学ぶために、小動物と触れ合う場所を作るというのは大事だと思っております。

今後、新しく開園されるということですので、三重県観光連盟の「観光みえ」というポータルサイトがありまして、それが全国で閲覧者の数が一番多いということですから、ふれあい広場が改修されて開園する時に、PR させていただきたいと思います。

それ以外にも、「みえ旅アンバサダー」というものがありまして、自身で三重県内を旅行してＳＮＳで魅力発信される方、20 代から 40 代の方が約 40 名おり、そういった方にもふれあい広場がリニューアルオープンした際にＳＮＳで発信していただけないか、働きかけたいと思っております。

多気町の魅力を発信していって、多くの人に来ていただけるように、また、子ども達も自分達のふるさとの景色が出ているということは喜ぶと思いますので、しっかりやらせていただきたいと思っております。

（町長）

私が職員時代の頃は、ゾウもおりキリンもおり、ゾウが亡くなった時は、本当にこれから大丈夫かと思うぐらい、たくさんの人に来ていただきました。観覧車も、中古品ですがありました。

今は形が変わってきて、子どもも大人も、いろんな遊ぶ場ができましたので、これからふれあい動物園という形で発信して、お客さんがどれぐらい来てくれるのか本当に不安な部分があります。我々の方でも、ふるさと村には動物園もあるし、高校生レストランもあるし、とＰＲしながら、もっともっと発信していきたいと思います。単独で多気町だけでやっていてもだめなので、ぜひ県の協力をお願いしたいと思います。